

下呂温泉 記

川内事務所の社員旅行に同行して、下呂温泉に出かけた。

10 月末の時期を選んだ理由は、仕事上の都合のみである。紅葉には早い、酒の好きな男女が、とにかく出かけることとなった。



片道 345km、1泊2日の行程である。名神高速一宮 IC から東海北陸道へ乗り継ぎ、先ずは、酒蔵（奥飛騨酒造株式会社）へ立ち寄り、試飲を主に、酒蔵見学を行い、美味しい酒をしこたま仕入れ、家に郵送した。何種類も試飲して、美味しいと思う酒を皆さん買ったのだが、それは一番高いものだった。なんとなく、仕組まれた感じもなくはないが、誰もが、絶対これだと言って大枚を叩いた。

その後、一路下呂温泉へ。

旅館の窓から飛騨川（益田川）のせせらぎに架かる下呂大橋が見えるが、その橋近くに露天風呂（噴泉地）がある。今もその露天風呂に数名の男女が入っているのが見える。聞くとところによると、平成 22 年に男女とも水着着用が義務付けられたが、何故か反対者も多いという。現に、今入っている人は、男性は何も付けていないし、女性も完全ではない。そもそも、5 年前までは水着着用義務もなく、古くから、このような解放的な環境で入浴が行われていた。温泉が湧き出していることを白鷺が知らせた場所がこの露天風呂の近くにあり、そこに源泉塔が建っている。



まずは、大風呂から露天風呂で汗を流した。湯に浸かると皮膚がすべすべになる。古くから、下呂温泉は、草津、有馬と共に天下三名泉として紹介され、多くの湯治客が訪れたと言うが、不思議にも、私の風邪が治ったようである。

お湯から上がると、早々に今回のメインイベントである宴会が始まった。食事をしながら、お酒がまわるに従い、話が盛り上がる。日頃、事務所の中では聞けない皆さんの話が場を盛り上げる。カラオケタイムで更に盛り上がり、それでも飽き足らずに場所を変えて話が続く。



温泉寺から見た下呂温泉



薬師如来から1000年の源泉が湧きでている！

翌朝、早く目覚めた私は、カメラを持って散歩に出かけた。河原で温泉の湧き出しているのを知らせた

白鷺が中根山（下呂富士）の中腹の松に止まり、その松の下に薬師如来が鎮座しており、そこから現在まで 1000 年以上お湯が湧いていると伝えられる。この地に建てられたのが温泉寺である。この温泉寺から下呂温泉を一望できる。この温泉寺辺りはもみじが多いが、紅葉には未だ早かった。

更に山を登って行くと、湯之島館があった。昭和 2 年、平地ではなく、下呂富士の中腹まで温泉を引き、樹齢数百年の杉や檜が立ち並ぶ自然豊かで静かな場所に、当時の温泉旅館の一般的なスタイルとは異なり、支配人制度をとり、リゾートホテルのスタイルの宿としてスタートしたものだそうです。ビリヤード場、社交場、舞踏場、日光浴室、バー、テニスコートを備えていたといい、そのほとんどが、今も当時の姿のまま営業しているという。是非、一度拝見したいと思い大きな玄関戸を開けてお願いをした。感じのいい中年のおじさんが、中に入っては、誰かと相談してくるのですが、結局お断りされた。玄関口からと周囲から眺めて、その場を後にした。

他の方は、朝風呂を楽しんだようでした。朝食はバイキングを楽しみ、何箇所か下呂温泉街の中を散策し、胃袋も満足させて帰路に就いた。